

第5章 廃棄物の将来推計

第1節 一般廃棄物（ごみ）の将来推計（平成27年度）

- ① 一般廃棄物（ごみ）の将来推計は、これまでの動向が将来も続くものとし、人口は国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」（平成19年5月推計）を用いて行いました。
- ② 推計の結果、県民及び事業者等によるごみ減量化の取組や県内人口の減少などによって、排出量は減少するものと見込まれます。（表5-1-1）
- ③ 分別収集の徹底等によって、再生利用率は、今後増加するものと見込まれます。
- ④ 焼却等の中間処理による減量化量及び最終処分量は、排出量の減少に伴い、いずれも減少すると見込まれます。

表5-1-1 排出量等の将来推計

年度	H20（実績値）	H27（推計値）
排出量（千t）	602	576 ^{*1}
再生利用量（千t）	99	113 ^{*2}
再生利用率（%）	16.4	19.6 ^{*a}
減量化量（千t）	436	410 ^{*b}
減量化率（%）	72.4	71.2 ^{*c}
最終処分量（千t）	71	53 ^{*3}
最終処分率（%）	11.8	9.2 ^{*d}

(注)

○*1～*3については、以下により県で設定した数値

*1：602千t(H20年度実績値)×人口減少率(1,766千人(H27年度県内人口)/1,846千人(H20年度県内推計人口))

*2：各市町村のH15～H20年度再生利用量実績から推計。

*3：H20年度実績から各市町村見込みを考慮し推計。

(H20年度最終処分量実績に市町村実態調査のH27年度の最終処分量見込み値を掛けた数値)

○*a～*dについては、以下の計算により算出される数値

*a： $\{(*2)/(*1)\} \times 100(\%)$

*b： $(*1) - (*2) - (*3)(\text{千t})$

*c： $\{(*b)/(*1)\} \times 100(\%)$

*d： $\{(*3)/(*1)\} \times 100(\%)$

第2節 一般廃棄物（し尿）の将来推計（平成27年度）

- ① し尿等の排出量については、今後の生活排水処理施設の整備見通しをもとに、将来推計を行いました。
- ② 推計の結果、し尿の排出量は、下水道の普及や合併処理浄化槽等の整備及び人口の減少に伴い大幅な減少が見込まれます。浄化槽汚泥排出量はわずかな増加が見込まれます。（表5-2-1）

表5-2-1 し尿等の排出量の将来推計

年度	H20（実績値）	H27（推計値）
し尿（千ℓ）	197	95
浄化槽汚泥（千ℓ）	311	327

第3節 産業廃棄物の将来推計（平成27年度）

(1) 活動量指標を用いた将来予測の方法

- ・ 産業廃棄物量の将来予測に当たっては、今後とも「大きな技術革新及び法律上の産業廃棄物の分類に変更がなく、現時点における産業廃棄物の排出状況等と業種ごとの活動量指標との関係は変わらない」ものと仮定して、実態調査で得られた原単位(A式)と別に調査した業種別の母集団(調査対象全体)における将来の活動量指標を用いたC式によって予測しました。
- ・ また、将来の活動量指標(O")の予測は、過去の活動量指標の動向(トレンド)に対して数種類の回帰式(直線、指数曲線、べき曲線、対数曲線、ロジスティック曲線、修正指数曲線)を当てはめる時系列解析により行い、適合度の高い回帰式を採用することとしました。
- ・ 将来の活動量指標の算出方法等については、下の表に示すとおりです。

$$\boxed{\text{C式}} W'' = \alpha \cdot O''$$

W'' : 平成20～32年度の予測産業廃棄物量
 O'' : 平成20～32年度の母集団の活動量指標

原単位： α については、実態調査によって得られた業種別、種類別の集計産業廃棄物量と業種別の集計活動量指標から、A式により活動量指標単位当たりの産業廃棄物量（原単位）を算出するものとする。

$$\boxed{\text{A式}} \alpha = W/O$$

α : 産業廃棄物の排出原単位
 W : 標本に基づく集計産業廃棄物量
 O : 標本に基づく集計活動量指標

(2) 将来予測結果

- ・ 「活動量指標を用いた将来予測」を行ったうえで、平成20年度の新幹線工事関連に係る特殊事情を考慮し推計した結果、県全体の排出量は、緩やかな増加傾向が続くものと見込まれます。
- ・ 再生利用率は、建設業の活動量指標の減少に伴い、がれき類等の再生利用量の減少が全体に影響し微減と見込まれます。
- ・ 最終処分率は、全体的な底打ち感があり概ね横ばいと見込まれます。(表5-3-1)

表 5-3-1 産業廃棄物の将来推計

(単位：千t)

年度	H20 (実績値)	H27 (推計値)
排出量	7,140	7,320
再生利用量	3,726	3,697
再生利用率	52%	51%
減量化量	3,236	3,467
減量化率	45%	47%
最終処分量	175	153
最終処分率	2%	2%

- ・ 業種別に見ると、製造業(パルプ・紙、窯業・土石、電子部品等)は、活動量指標となる製造品出荷額等のここ数年の増加傾向を反映し、緩やかな増加傾向が続くものと見込まれます。
- ・ 建設業は、公共工事の減少に伴い、やや減少するものと見込まれます。

(表 5-3-2)

表 5-3-2 業種別排出量の将来推計

(単位：千t)

年度	H20 (実績値)	H27 (推計値)
農業	2,966	2,997
製造業	1,546	1,717
建設業	1,383	1,275
電気・水道業	1,127	1,212
その他	117	120
計	7,140	7,320

- ・ 種類別に見ると、動物のふん尿、汚泥の上位種類に変化がなく、緩やかに増加するものと見込まれます。(表5-3-3)

表 5-3-3 種類別排出量の将来推計

(単位：千t)

年度	H20 (実績値)	H27 (推計値)
動物のふん尿	2,954	2,984
汚泥	2,013	2,219
がれき類	1,196	1,122
木くず	96	87
廃プラスチック類	82	84
ガラス陶磁器	82	84
その他	719	739
計	7,140	7,320